中野区教育委員会会議録

令和２年第３１回定例会

令和２年１１月１３日

中野区教育委員会

令和２年第３１回中野区教育委員会定例会

○日時

令和２年１１月１３日（金曜日）

開会　午前１０時００分

閉会　午前１１時２１分

○場所

中野区立中野中学校

○出席委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　田中　英一

教育委員会委員　　小林　福太郎

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

教育委員会委員　　渡邉　仁

○出席職員

参事（子ども家庭支援担当）　小田　史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

永田　純一

指導室長　宮崎　宏明

学校教育課長　板垣　淑子

子ども教育施設課長　塚本　剛史

中野中学校長　弓田　豊

鷺宮小学校長　武智　直貴

○書記

教育委員会係長　金田　英司

教育委員会係　香月　俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

○傍聴者数

１５人

○議事日程

１　議決事件

（１）第４８号議案　中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の決定手続について

２　協議事項

（１）ＩＣＴ教育について

○議事経過

午前10時00分開会

入野教育長

おはようございます。

それでは、定足数に達しましたので教育委員会第31回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、伊藤委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここで、傍聴の許可について、お諮りいたします。

教育委員会の会議における傍聴人の数につきましては、中野区教育委員会傍聴規則第３条により、20人以内と定められております。

本日は傍聴を希望される方が20人を超えてお見えになることが想定されますので、あらかじめ同規則第３条ただし書の規定により、20人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、20人を超えて会議を傍聴することを認めることと決定いたしました。

ここでお諮りをいたします。

本日は、株式会社ジェイコム東京から、取材のため、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がございました。会場を撮影する場合には教育委員会の承認を得る必要がございます。これを承認したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たっては、会議に差し支えないように行っていただきますよう、お願いをいたします。

また、傍聴の方を撮影される場合には、個別に了承を得てから行っていただきますよう、お願いをいたします。

さて、本日開催いたします地域での教育委員会は、皆様もご存じのように中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所にその会場を移して開催を

しているものでございます。今回で 37 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいりますが、本日の協議事項の「ＩＣＴ教育について」につきましては、テーマに関連して、小中学校の校長先生方をお招きしております。お話をお伺いする予定でございますので、よろしくお願いをいたします。

また、会議を一旦休憩し、協議テーマに関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思います。

その後、会議を再開し、いただいたご意見も参考にしながら、引き続き、協議を深めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、議事に入ります。

＜議決事件＞

入野教育長

最初に議決事件の審査に入ります。

議決事件の１番目、第 48 号議案「中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の決定手続について」を上程いたします。

初めに事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長

それでは上程中の第 48 号議案、中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の決定手続につきまして、補足説明をさせていただきます。

まず、提案の理由でございます。区長に対し、中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の指定について、区議会への議案の提出手続を依頼する必要があるためでございます。

資料をご覧ください。令和２年 10 月 30 日教育委員会報告「中野区軽井沢少年自然の家指定管理者候補者の選定結果について」を踏まえまして、下記のとおり中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の指定手続を行います。

１　案件名、中野区軽井沢少年自然の家指定管理者の決定手続について。

２　提案理由、区長に対し中野区軽井沢少年自然の家の指定管理者の指定について、区議会への議案の提出依頼を依頼する必要があるため。

３　内容です。

(1)指定管理者候補者。住所、長野県南佐久郡小海町大字千代里。番地は記載のとおりです。株式会社フードサービスシンワ。

(2)対象施設、中野区軽井沢少年自然の家。

(3)指定期間、令和３年４月１日から令和８年３月 31 日までございます。

説明は以上でございます。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

入野教育長

ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いをいたします。

よろしいでしょうか。

渡邉委員

この今回の指定管理者におきましては、今までの管理者と変更があったのでしょうか。

学校教育課長

これまでの指定管理者と変わる予定でございます。

渡邉委員

これは、以前やっていた事業者が応募しなかった理由というのは、何かありますか。

学校教育課長

現在運営している事業者に、特に理由のほうは言われておりません。一応、今回で終わりにしたいという形で説明を受けているところです。

渡邉委員

何かトラブルがあって変更ということではないと捉えていてよろしいですか。

学校教育課長

そういうことではないと認識しております。

渡邉委員

ありがとうございました。

入野教育長

ほかにございますでしょうか。

小林委員

今の渡邉委員の発言に関連して、こういった業者がかわるというのは、ある意味ではいいことでもあると思います。緊張感を持ってしっかりと職責を果たしていただくということです。

特に児童・生徒、さらには区民の安全を守るというか、食品関係も含めて非常に重要だと思いますので、こういうかわり目にただ単に淡々と事務的に引き継ぐのではなくて、しっ

かりと安全管理を進めていただきたいという旨を、改めて業者のほうにしっかりと伝えていただければありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

入野教育長

そのようにしてまいりたいと思います。他に質疑はございますでしょうか。

質疑がございませんので、質疑を終結いたします。

それでは、簡易採決の方法により採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第 48 号議案を原案のとおり決定することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので原案のとおり決定いたしました。

＜協議事項＞

入野教育長

続いて、協議事項、「ＩＣＴ教育について」を協議いたします。

中野区教育委員会では、今後ＧＩＧＡスクール構想に基づき、全児童・生徒へタブレット端末を配布し、電子教材やインターネットなどのＩＣＴ技術を活用して、学校における授業や家庭での学習、状況に応じた在宅学習を支援していく計画を進めております。特に今年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため各小中学校が休校することになり、オンライン授業などが注目されてきていると思います。各学校におきましても中野区については、今ある環境の中で最大限の努力をしていただいたということは、これまでも機会を捉えてご報告申し上げてきたところでございます。

改めて本日は「ＩＣＴ教育について」をテーマとして、最初に小中学校での取組をご紹介していただいた後、教育委員の皆様からご意見をお伺いして協議を進めてまいりたいと思います。

それでは、初めに、本日の会場である中野中学校の弓田校長先生から「中野中学校におけるＩＣＴ教育」について、お話をお伺いしたいと思います。

弓田先生、お願いをいたします。

弓田校長

では、よろしくお願いします。本日のテーマが「ＩＣＴ教育」ということですが、私自身ＩＣＴ教育に精通しているわけではございません。ＩＣＴ教育の詳細については、鷺宮

小学校の武智校長先生からご説明があるかと思います。

私からは本校、それから中野のスタンダードなＩＣＴ教育の取組について説明をさせていただきます。

口頭で簡単にお伝えしようと思っていましたが、ＩＣＴ教育がテーマですので、私も慣れないＩＣＴ機器を使用してお話をさせていただきます。

現在中野区より全教職員にタブレットパソコンが貸与され、また普通教室には電子黒板と書画カメラが配置されています。おかげさまでどの教員もＩＣＴを活用した授業を行うことができています。本校もほとんどの教員が活用しています。非常勤の先生の中には、常勤以上にＩＣＴを活用した授業を行っている方もいます。

ここからは先週の本校の授業の様子を紹介をします。

写真は社会科、今年３年目の社会科の教員が、第一次世界大戦後の日本の景気について電子黒板を使って説明している場面です。この教員は本当に毎時間ＩＣＴを活用しています。

コンピューター室にはパソコンが 40 台設置されています。子どもたちはここでプレゼンテーションの資料の作成とか調べ学習を行っています。写真は家庭科の授業で、よりよい社会の実現に向けて人や社会、環境のことを考えた消費行動を学ぶエシカル教育について学んでいる場面です。

この教員は今年 60 歳ですが、今年になって授業でＩＣＴを積極的に使うようになりました。

生徒が教室でパソコンを使えるように教室用のパソコンが 40 台、どの学校にも設置されています。生徒はこのパソコンを使って調べ学習やプレゼンテーションの資料作成を行うことができます。この写真は英語科の授業で、今４人が２台のパソコンを使って授業で学習したことについて調べて、最後にこの４人が一つのプレゼンテーションの資料を使っている様子です。英語の授業は、これはもう毎時間ＩＣＴを活用しております。

それから、書画カメラと電子黒板を使った授業も行っています。左は、非常勤の理科の先生なのですけれども、ニワトリの手羽先を使って骨と筋肉の関係を調べています。左側にあるのが書画カメラです。これ、右側は数学の授業で、数学の教員がコンパスを使った作図の様子を電子黒板で拡大している様子です。

現在数学と英語に関しては、区のご配慮でデジタル教科書を使うことができています。可能であれば他教科にも拡大していただきたく思っております。

ここからは３月から６月までの臨時休業期間中に行ったことを、お話をします。当初は突然の休業だったものですから、教員が何とか課題をつくらなければいけないといって、慌てて学習課題を印刷し、最終登校日に生徒に配布をしました。

その後、区の教育委員会からホームページに週ごとの時間割と学習課題を掲載し、生徒の学習を支援するように要請があり、それを行いました。

ちょっと見にくいかと思いますけれども、これは１年生の５月 18 日の週の時間割、それから内容です。毎週この形を継続していました。

それから５月に入って、区の教育委員会からＩＣＴ環境が整っていない生徒がいるということで、調べた上でタブレットとルーターが貸与されました。それから、教員も動画を作成して配信をしましょうということ、これも何回か行いました。それから、Ｇｏｏｇｌｅアカウントを取得していただいて、全校生徒に配布をしました。このことはオンライン学習を進める上では本当にありがたく思いました。さらに５月の下旬からはＩＣＴ支援員が配置されていました。本校は週に４回ぐらい来ていただいて、このＧｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍの様々なルームを整備していただいて本当に助かりました。

それから、休校が明けて学校が再開しました。全校生徒が登校した６月 13 日に初めてＧｏｏｇｌｅ ＣｌａｓｓｒｏｏｍのＭｅｅｔという機能があって、これを使ってオンライン朝礼を行いました。オンライン朝礼は本校では初めての取組でした。担任が教室でセッティングをして、８時 25 分に私が校長室から講話を配信しました。

生徒を目の前にして話をするより、こうやってパソコンに向かって話をするほうがとても緊張しました。この「思いやりの距離」というのは、これは実は山中伸弥教授が、ソーシャルディスタンスを自分はこのように訳しているのだということについて、朝礼で話をしたものです。

それから、臨時休校が終わった後、Ｇｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍの活用についての話です。子どもたちにアカウントを配ったものの、この活用の方法を十分指導していなかったものですから、改めてＣｌａｓｓｒｏｏｍの使い方について指導を行いました。Ｃｌａｓｓｒｏｏｍというのは、クラスごと、それから教科ごとに分けられて、生徒は自分のクラスの内容だけ見ることができる。よそのクラスには入ることができないというものです。

それから、今度は夏休みの期間です。オンライン学習を進めるためには、当然このことについて教員が精通していかなければいけないということで、夏休み期間中にどんなことをしたか幾つか説明をさせていただきます。

まず、とにかく全教員がこのＧｏｏｇｌｅ　Ｃｌａｓｓｒｏｏｍに夏休みの課題とか、それから教材を提示しようと。できなくてもとにかく１人１回は上げようということをやりました。それから、３年生が夏休み期間中に上級学校の訪問を行います。子どもたちに訪問したらばＧｏｏｇｌｅ　Ｃｌａｓｓｒｏｏｍを見て必ず報告をしなさいということで、スプレッドシートという形らしいのですけれども、このシートで子どもは担任のほうに報告を行いました。

それから、夏休みの途中ぐらいですかね。全生徒に夏休みの課題にちゃんと取り組んでいますかというようなアンケートを実施しました。体調が悪くなったことはないかとか、幾つかのアンケートを実施して、子どもたちがそのアンケートに答えてＧｏｏｇｌｅ　Ｃｌａｓｓｒｏｏｍに投稿するという形をとっておりました。

それから、夏休みの課題を出しましたけれども、後半になって子どもたちに課題の解説とか解答、これをクラスルームで提示して、子どもたちの学習状況がはかどらない子どもたちについて、いろいろ支援をしました。

それから、夏休み終了前日に、全クラスがこのＭｅｅｔという機能を使ってオンライン学活を行いました。

それから、９月に入って子どもたちがまた登校してきました。Ｇｏｏｇｌｅ　Ｃｌａｓｓｒｏｏｍを、どんな活用しているかということについて幾つか話をします。

まず一番大きなものは動画の配信です。道徳授業地区公開講座がこんな状況でできなかったものですから、保護者に道徳授業をやりますのでご覧になってくださいという形で、学校の道徳の授業の様子を配信しました。たまたまその日の午後に保護者会があったものですから、道徳のことについて協議会ではないですけれども、ご感想をいただいたクラスもありました。

それから、生徒会の役員選挙の立会演説会、いわゆる政見放送を、これを使って行いました。

それから、運動会。これは多分１年生の運動会の様子ですけれども、この段階で 65 人ですか。半数以上の保護者の方がご覧になっているような状況です。

動画配信の続きとして、全校生徒を体育館に集めることができません。１学年だけ体育館に集めて朝礼を行う。その様子を他学年に配信するという形をとりました。

それから、欠席生徒に学級活動の様子を配信する。欠席生徒もそれを見て参加する。

それから、部活動で行っている試合を家庭に配信する。

それから、学習課題とか学習素材をＣｌａｓｓｒｏｏｍ上にアップして、「次までにやってきなさい」とか、「今日の宿題の、授業で行えなかった解答だよ」みたいな形で、各教科がＣｌａｓｓｒｏｏｍにアップをしました。

それから、運動会を実施して、その運動会のアンケートをＣｌａｓｓｒｏｏｍで行う。これも非常に簡単に子どもたちの感想を集約することができる。

それから、Ｃｌａｓｓｒｏｏｍには担任から子どもにメールを配信する機能があって、個人に配信するとほかの子どもたちが読めない。それで、休んでいる子どもに担任がメールを行う。管理職はこれを見ることができますので、不適切な内容は一切ありません。

それから、担任とか顧問が連絡手段として、明日急遽雨が降ったから部活動はないよとか、今月の部活動の予定はこうだよという形で活用しています。

最後に、本校は比較的オンライン授業というのは進んでいなかったのですけれども、教員に明日から長期の休校になったら学びを止めないことができるかと問うたら、できますという回答をいただきました。新型コロナウイルス感染症がまたはやってきた中で、二度とあんな状況にはなりたくないですけれども、仮になったとしても、以前よりは良いオンライン授業ができるのではないかなと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

入野教育長

弓田先生、ありがとうございました。

続きまして、鷺宮小学校の武智校長先生から「小学校におけるＩＣＴ教育の取組について」お話をお伺いしたいと思います。

武智先生、よろしくお願いをいたします。

武智校長

おはようございます。今ご紹介いただきました鷺宮小学校校長の武智と申します。上手に説明できるかちょっと自信がないのですが、小学校のほうの現状というか、ＩＣＴ教育について説明させていただきたいと思います。

でも、今、弓田先生が中学校のほうを具体的に活用の場面を伝えていただいたので、重なるところもありますし、いろいろわかりやすく先に説明していただいた部分がありますのでちょっと気が楽です。

それでは、進めます。まずＩＣＴ教育という言葉がなかなか難しいなと思って、最初に、自分なりの定義なのですけれども、情報教育という言葉がありますので、何が違うのだと

いう、混在してはいけないと思って、自分なりには今日の説明では情報教育というのは、この情報教育の３本柱の育成を目標とする教育のことで、それは情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度。これが三つの力と言われていて、これを育てるのが情報教育と言われています。

今日説明するＩＣＴ教育は、もちろんこれらを育てるための教育ではあるのですけれども、ＩＣＴ、情報通信技術を効果的、積極的に活用した教育及びその理解と考えます。

例えば最近のキーワードで言えばＩＣＴ活用、これは先生の活用でもあるし、子どもたちの活用でもあります。

それから、モラル指導。これがやっぱりインターネットを基本に使いますのですごく大事な部分かなと思います。

それから、小学校は今年度からプログラミング教育がスタートしています。新型コロナウイルス感染症のことでオンラインのほうが先行して、ちょっと足踏みしているところもあるのですが、これも大事な側面の一つです。

そして、オンライン学習などを進めていく教育だと思っています。

中野区の現在の基本的なＩＣＴの環境ですけれども、まずハード面です。児童用のタブレットは各校に 40 台いただいています。それから、教員も今一人１台、学習で指導できるタブレットをもらっています。そして、教室用の大画面モニター、いわゆる電子黒板です。70 インチあって、今、後ろで見ていただいているテレビが 52 インチなので、それよりも相当に大きくて黒板の幅ほどありますので、すごく大きくて見やすいものをいただきました。書き込みもできますし、手でこういう作業もできるので、大きなタブレットという感覚で使いこなしている教員も多くなってきました。

それから、実物投影機、書画カメラです。物をこうやって写し出すもの。それから、各教室には無線ＬＡＮが整っていますので、教室で子どもたちがタブレットを使える環境にはなっています。ただ、基本普通教室に整備されています。移動用のアクセスポイントを今６台いただいています。ですから、無線ＬＡＮが整っていない教室には、これを持っていってつなげば使えるという状況になっています。現在６台あります。

それから、６月にいただいたものが、６年生には家庭学習用の端末とそれからルーターが貸与されました。残念ながら５年生以下にはまだ行き渡っていないのですが、家庭で１台は持っているおうちも大分ありますので、何か見てもらうようなことはできると思うのですけれども、一人１台という形で行えるのは、現在は６年生までという環境になってい

ます。

続いて、ソフトウェア面です。タブレットのほうなのですけれども、ＳＫＹＭＥＮＵといういわゆる学習活動支援のソフトウェア一式。これは先生が教材を子どもたち１台、１台に配布したり、子どもの画面を回収したり、それからこのＳＫＹＭＥＮＵそのものに持っているソフトウェアがあって、例えばビデオで撮ったものを、時差をつけて再生する。追っかけ再生というものです。ですから、例えば跳び箱を飛んだ後に 15 秒ぐらいたってから自分が飛んだ画面が見られるというような。よくゴルフのスイング練習をするのに使ったりする機能ですけれども、それとかハードルとか体育でかなり使っているのではないかなと思います。

それから、動画を二つ比較して同時に流したりとか、いろんな機能があって、これ一つで大分いろんなことができて、これはほかの区でも取り入れている自治体があるので、異動してきた教員も「前にも使っていました」と言って、結構使っている教員が増えてきています。

それから、もう一つはコラボノートという、これは協働学習支援ソフトなのですけれども、いわゆる１枚の画面をみんなが同時にできるということで、これはＧｏｏｇｌｅの機能の中にもそういった機能のソフトがいっぱいある、アプリがいっぱいあるのですけれども、コラボノートはもともとそういうことをメインに開発していたものなので、例えば学級新聞なんかをここは誰がつくる、ここは誰がつくるというのを同時にバーッと書き込んでいったりとか、それからパッと付箋に書いた意見を色別に、ボタン一つでパッと整理したりとかそんなようなことができるので、画面上でのコミュニケーション、そういったことができるということで協働学習、対話的なことが画面上で実現できるソフトかなと思っています。

それから、児童一人１アカウントというものをいただきました。これがＧ Ｓｕｉｔｅ ｆｏｒ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ。これは先ほど中学校でも説明いただいたＧｏｏｇｌｅのアカウントです。Ｇｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍという学級ごとのクラウド上の学習場面、学習室だったり、それからＭｅｅｔ。顔を合わせるオンラインのコミュニケーションだったり、それから共有のデータを置くドライブ。それからアンケートなど、テストとかできるフォーム、いろんな機能があります。これが使えるようになっています。一人１アカウントいただきました。

教材の共有ができる。課題の提示がＣｌａｓｓｒｏｏｍに入れておくことで、家でもそ

れが見られる。それから、共同編集ができる。テストやアンケートなどができる。オンラインミーティングができる。こんなような機能が、これを契約していただいたことでできるようになりました。

それから、学習支援クラウドサービス、おまかせ教室といういわゆるオンラインドリル学習、こういったものも契約していただいたので、学習とつながるところについては、学習場面でもできるし、それから復習としても使えるというものです。

今後なのですけれども、ＧＩＧＡスクール構想というものが出て、これが前倒しで中野も環境を整えていただいているところですけれども、タブレット端末が児童一人１台になるということと、それから高速大容量通信ネットワーク、これが基本になるということで、この二つがＧＩＧＡスクール構想のキーワードになります。これを要するに日常的に学習場面で使っていくということなのです。

クラウドの活用により学校でも家でも学ぶ。これをどうつないでいくかということがポイントだと思います。機能をいただいているＧ Ｓｕｉｔｅ ｆｏｒ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎをベースにデジタルコンテンツを活用していって、ネット上の学習素材ですね。そういったものをいっぱい活用して、そしてハイブリッド型授業、後ほど説明しますけれども、これを実現するということが、今後のＩＣＴ教育のポイントかなと思っています。カラフルな色を使ったのですけれども、これはグーグルの色をちょっといただいたということでご紹介させていただきます。

続いてですけれども、現環境で小学校はどんなことをやっているかというのは、実は桃園第二小が一番先行しています。例えば桃園第二小はこんなようなものを「学校だより」にも載せて紹介していました。これはなかなかいいなということで、小学校の校長会ではこれを共有しています。この中からも少し抜粋して以下紹介していきたいと思います。

学校では思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう力の育成、これがＩＣＴの活用によって大変有効だと思っていますけれども、中学校同様実物投影機による教材提示を行っています。これはもうかなり日常的に行われています。

電子黒板、デジタル教科書は小学校も算数と英語をいただいています。

それから、インターネット上の学習コンテンツを活用している教員も大分増えてきています。

そして、先ほどお話ししたＳＫＹＭＥＮＵとかコラボノートといった学習活動支援ソフト、そして協働学習支援ソフト、こういったものを活用しています。それから、タブレッ

ト、そして大画面モニター、電子黒板を活用すると、私たちが子どものころに比べると数段子どもたちは発表力というのが育ってきているなと実感しています。今も私、こうやってパソコンを使ってお話ししているのですけれども、こんなことを子どもたちが当たり前のようにやるようになってきたと。タブレットを持ってこうやって紹介したり、またはこういうところへ行って、こうやって説明するような子が小学校でも大分増えてきているということです。これはやはりこれから世界に羽ばたいていく子たちに必要な資質なのではないかと考えます。

それから、ここが小学校のポイントなのですけれども、キー入力操作。いわゆる打てる、タイピングができるかどうかということです。これをどのタイミングで教え、どこで鍛えていくかということで、これができることによって高学年での学習が広がっていくなと思っています。指でポンポンポンと入れる、タッピングというのですか。こういう感じで入れる、入力するということは、もう最近はスマホがはやってきて、子どもたちできるのですけれども、長文で何かをつくり上げるということになると、やはりタイピングの力があるか、ないかでこの活用力が変わってくるのかなというふうに思っています。

一般的には３年生でローマ字を習いますので、その辺からローマ字入力が始まって、定期的に積み重ねていくことで、高学年である程度ここまでというものをしっかり学校として目標を持ってやっていくのが大事かなと思っています。

先ほどもお話ししたように情報モラルの指導。これもきちんと各校が子どもたちにしっかりやっていくことが必要なのかなと思います。家庭に任せても多分差が大分生まれてしまうことだと思うので、学校でもしっかりやっていくことかなと思っています。

現在の環境では家庭では情報発信としては情報メール、それからホームページを活用して、実際に休校期間もこの二つをかなり活用しました。子どもたちへの課題提示もほぼ小学校はホームページを活用しています。

それから、動画をという話が区の教育委員会からもあったので、動画でメッセージを子どもたちに送るという、そういったスキルは、最低１回は、教員はあのときやりました。なので、やり方ということは１回学んでいるので、これを今後日常の学習にどう生かしていくかというところは、やはりやればやるほど慣れていくことなので、その辺は課題かなと思っております。

そして、あと学習コンテンツへのリンクです。こういうところ、これを見て感想を述べるとか、これを見て浮かんだことを書きなさいとか、そんな学習がやりやすくなりました。

今Ｇｏｏｇｌｅのアカウントをいただきましたので、Ｃｌａｓｓｒｏｏｍとかフォームを活用した課題、アンケートの配布、実施、回収などが、これができるようになってきています。

そして、授業と家庭学習を結ぶということで、今日の私の話はここがメインかなと思っているのですが、先ほどから説明していたＧｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍ、各クラスがこのオンライン上に教室のようなスペースがあって、そこにみんなが入っていって、そこで勉強の素材があったり、自分のコメントを載せたり、先生から返しがあったりということができるＧｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍ。

それから、「おまかせ教室ラインズｅライブラリ」という学習ドリル。そういったものを学校でも、それから家庭でも活用するということがポイントだなと思っています。一般的にハイブリッドというと対面学習と遠隔学習と考えるのですけれども、この一人１台になったら、日常的に学校でも家でもこれが有効に使えるような勉強の仕方を考えなければいけない。だから、このハイブリッドの意味は学校でも、家でもという意味に置き換えて考えることが、より広がっていくためのポイントではないかなと思っています。

例えばＧｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍに置く学習コンテンツを、授業でも家庭学習でも計画的に活用すること。それから、わからないところに戻って復習したり繰り返したり、発展学習にチャレンジしたりと、要するに自分のペースでできる。今日学校でこれをやったよな、家に帰ってそれを開いたらそれがあって、もう１回見てみるとか、それから何回でもやるとか、そういうことで学習の定着につながるのではないかということです。

それから、次、オンラインドリルなどがあれば確認問題にチャレンジしたりということで学習の定着にさらにつながっていくと。こういったことをうまく計画的に行うことをハイブリッド型の授業と考えたいと思っています。

そうすると休校になっても、これが今ありますので、子どもと教員、子どもと子どもを結ぶオンラインコミュニケーションが実現できるということで、例えばＧｏｏｇｌｅ Ｍｅｅｔを活用したオンラインの朝の会。家にいても例えば朝、顔を合わせるとか、そういうことが今はできるようになりました。休み時間、子ども同士が話し合うとか、帰りの会を設定するとか、場面によっては話し合い学習をするとか、こんなことができる環境になってきたということです。

実際、学校が始まってオンライン朝会は、先ほど弓田先生からもお話がありましたけれども、小学校もほとんどが今、月曜日はそれをやっていると思っています。私も毎週月曜

日にやっていますけれども、大分子どもたちも慣れてきて、終わって「じゃあ、朝会を終わります」と言うと、私は大体低学年もいるので、画面に向かって最後に「サザエさん」ではないですけれども、じゃんけんをするのです、こうやって。それを楽しみにしているクラスもあるのですけれども、そんなのもう楽しみにしないでさっさと切るクラスもあるのです。もうパパパッと消えていくクラスと、ずっと待っていて校長とのじゃんけんに応えてくれるクラスと、なかなか厳しい毎日を送っているところです。そんなようなことも楽しみながら進めています。

それから、教員との個別相談です。今後は休校が長引けば、こういったことを活用することもできるのかなと思っています。養護教諭だったり、スクールカウンセラーです。そういったものができるかなと思います。

最後に課題です。今言ったようなことが全てのクラスで確実に、一瞬にしてできるようになるわけではありません。まず教員の活用技術の向上ということで、いわゆる研修というのは今までもいろいろありましたけれども、ただ通常の今までどおりの研修をやっていれば広がるというものではないなというのを感じていて、ここは、どうやっていくかというところが大きなポイントだと思います。

つまり端末を学校でも家でも活用する指導計画、これをしっかりつくってやっていくことが大事だと。でも、これもなかなかやり方によってはクラスによる格差を生んでしまうので、ポイントは学年でそろってやるというところだと思っています。後ほどまたそのお話をします。

ＩＣＴの環境整備は高速大容量通信ネットワークがしっかりとれること。中野区も今年度中から進めていただけるということなのですけれども、インターネットでのその恩恵を体感できる、感じられるのはもうちょっとかかるみたいなので、しっかりその辺の整備を進めていただければありがたいと思います。

それから、今度は子どもたちが端末を毎日持ち歩くようになる。そうすると児童の忘れ物に、「先生、パソコンを忘れました」みたいなことが出てくるのかなと。それから、「充電を忘れました」みたいな新しい忘れ物というのが出てくるのかなと思っています。

それから、機械ですのでトラブル、故障があるので、こういったときの対応というものも新たな課題です。

それから、中学校は支援員が早々と配置をされたのですが、小学校は今残念ながらまだ６校しか配置されていません。やはり支援員が配置された学校はグッと進んでいます。で

すから、これが全校に確実に配置されることは、大変進むことにつながるのだなと思っています。

それから、アカウントをお配りしているので、これをしっかり管理していくことが大事です。使い方を誤ると情報漏えいとかいろんなことにつながっていくので、管理をどうしていくかということが課題です。

それから、家庭に、授業とかいろんな行事の配信が進められてきています。現状としてはＧｏｏｇｌｅのアカウントを使っていると思うのですけれども、そもそもこのアカウントは子どもの学習のために、子ども向けに配布をされているものだと思うので、今後こういったことを、家庭とつながるというところで充実させていくためには、そういったアカウントの意味合いもしっかり切り分けて、これは保護者に伝えるもの、これは子どもが使うものということをしっかり整備していく必要があると思っています。

現在は、広げるために少し緩まっているところがあると思うのですけれども、こういったところもきちんと整えていくことが大事かなと思います。

先ほど、後でとお話をしたことを一つだけお話しすると、中学校と小学校は大分条件が違うなという、ここに来て改めて思っています。というのは先ほどお話ししたように、ある程度のタイピング力だったり、機器を使う力というのは、中学１年生と３年生ではそんなに違わないだろう。中学校は多分学校としてこれができるというのはやりやすいだろうと思います。

ところが、小学校は１年生と６年生では全然スキルが違うのです。ですから、担当している教員も当然低学年を担当している教員と高学年を担当している教員がいますから、学校としてと言ったときには、どの学年に何をやらせるかという計画を明確にして、そういったことをちゃんといろんな人に理解してもらって、それでしっかり段階に応じて育てていくということが大事なのだと思っています。

あともう一つは、中学校は教科担任制なのです。ですから、先生が自分で授業のために準備したものが、同じ学年で同じ先生が授業をしますから、その学年に均等に行き渡るのですけれども、小学校は担任制なので隣のクラスはやっているけれども、こっちはやっていないということが起きやすいのです。

でも、これをどのクラスでも、どの学校でもきちんとやっていくというふうにするためには、少なくとも学年が足並みをそろえてやっていくことが大事だと。ですから、学年で計画する指導計画を、しっかりとＩＣＴを位置づけた指導計画をつくって、このとおりに

これをやろうということを積み上げていくことが大事なのかなと思っています。

全てを同時にパパッとやっていくことは難しいので、少なくとも本校では何年生はこの勉強で、こういう使い方をしましたということをいっぱい言えるように積み重ねていきたいと、そういうふうに思っています。そのことを今、校長会でも呼びかけていますので、一人１台の時代がもうすぐそこまで来ましたので、こういった準備を進めていって今後につなげていきたいと思っております。

短い時間で雑駁に説明しましたが、おわかりいただけたかどうか恐縮ですが、ご清聴ありがとうございました。

以上です。

入野教育長

武智校長先生、ありがとうございました。

ただいま各小中学校長の発表をお聞きいただきました。ここで教育委員の皆様から質問や感想などを含めてご意見を伺いたいと思います。

ご発言はございますでしょうか。

田中委員

報告をお２人の先生、ありがとうございました。

３月からこの短い間に本当にそれぞれ、あまりこういった環境がない中で、ここまでいろんな幅広く子どもたちのために取り組んでいただいて本当にありがとうございます。

特に私は休校のとき、あるいは夏休みのときにウェブで授業をしたり、そういったことが中心なのかなと思っていたのですけれども、今日校長先生のお話を伺っていると、その後の子どもたちの授業にも活用しようということで、いろいろ取り組んでいただいていることも大変心強く思いました。

一つお聞きしたいのですけれども、いろんな家庭との連絡とか、生徒にいろんな資料を渡したり、今いろんな活用をされているのですけれども、一番基本になる授業の部分で、やっぱりこのＩＣＴを活用したことで授業の内容が変わるというか、やり方はこういった機材を使ってということはあるのでしょうけれども、やり方が変わるというようなことはあるのでしょうか。

入野教育長

いかがでしょうか、校長先生方。

弓田校長

やり方そのものはどうかわかりませんけれども、指導室長にも面接のときに教えていただいたのは、例えば中学校は50分の授業です。それで50分の授業で導入から結論までもっていく。私は数学の教員なのだけれども、最後、「じゃあ、君たちができたかどうか、問５をやりなさい」と。今までは大体問５の解答を終えて、「じゃあ、授業を終わります」という形をとっていました。

ところがこのオンラインなんかを使うと最後、問５の解答はしない。「やりなさい、十分時間を与えるから」。あとは、解答はＣｌａｓｓｒｏｏｍに上げておくから、皆さんがうちに帰って解答を見て、解説を見て、明日きちんとできたかどうかは確認するよという形をとると、最後解答する時間が５分なり10分なり短縮できるから、授業そのものにゆとりを持って指導ができるということはあると思います。

武智校長

今のお話が多分、家庭でも使うための仕掛けというところだと思うのです。というのは、計画的に家でも使うというようにするためには、そういった仕掛けが必要なのかなと。

もう１点は、タブレットが、こうやって持っていくと指とかで書けますよね。だから、このタブレットの画面そのものが、もう今後はノートの感覚でやっていく必要があるだろうということで、結構いろいろ使っている教員が増えてきていて、例えば算数なんかももとの絵だけが配布されていて、そこにどんどんどんどん書き込んで考えます。それをノートだと、書くと間違えたらもう１枚もらうか、消しゴムで消すのですけれども、一瞬で消えるのです。しかも鮮やかで、しかもまっすぐとか直線とかそういうものは、機能で確実に引くこともできるので、そういったことをやらせるのは、タブレットとかパソコンのほうが優れていると。慣れてくるとパパパッと書いたものを子どもたちはこうやって見せ合って、こうで、こうでこうでと教え合ったり、「あっ、これ、間違えた」と言ってボタンをパパパッと押すと、自分が書いた順番に消えていってもとへ戻っていくとか、そういったことができるので、タブレットをノートのように使えるところまでいくと、かなり学びは変わってくるのではないかなと思っています。

それを得意な教員から発信して、イメージを教員に持たせていってやらせたいなと思っています。

以上です。

渡邉委員

ご発表ありがとうございました。本当に勉強になりました。

今日ここに座っている方、また傍聴に来られている方も同じような年代で、私が 30 年ぐらい前ですか、医者になったころですけれども、初めてコンピューターを買ったとき、車と同じぐらいの値段で、医者になったら買うのだと思ってやっと買った時代を思い出します。

あの時代のコンピューターで考えると、一々「Ｃコロン」とかと打って、そして何かやっていたことを考えると、こんな面倒くさいものをどうやって使うのだというような感じであったのですけれども、いつの間にかここまで進歩してきた。

そういった時代の考え方を見ると、今後もコンピューターの画面が液晶になり、液晶が今度はタブレットになって、キーボードという話もありましたけれども、今後入力方法もまた変わってくるのだろう。

何を言いたいのかというと、デバイスはどんどん進んでいって、そしてそれを使うこともどんどん慣れてはいくと思います。だから、フェーズがあると思うのですけれども、フェーズってその時代、時期がある。そして、まず今は配られた。そして、配られたものをまず標準化。こういった区立学校でありますから、先生方もさんざん言われていたように、やはり授業内容が人によって差が出ない、学校によって差が出ない。桃園第二小学校が進んでいるなんて、今はっきり言っていただいたのですけれども、やっぱりそういうふうに、最初の今導入された時期は、こういうことは起こっても仕方ない。

でも、５年ほどたってしまうと、多分標準化されるのだろうとは思います。ですから、今の時期はやはりこういったところに取り組み始めたので、ぜひともそういった標準化、私たちは区立の学校によって教育に差が出るなんていうことがないように、やはりそこに十分にまず力を置いていただいて、それで教科によって差が出るようだとか。そのあたり小学校、中学校なんかでも同じことだと思うのですけれども、そういったところに力を置いていただきたいなと思います。

これからどうやって活用するかということは、ですから、いろいろと方法も出てくるし、デバイスも出てくるし、いろんなことが変わってくるとは思うのですけれども、今度は学校間での共有、そして教師間での共有。そういったものにシフトしていくのかなと思っていますので、そのあたりを、校長先生は「俺の学校は」ではなくて、中野区立の学校、みんなある程度同じようなことをしていただきたいなと思いますので、それに必要なものを我々教育委員会も提供していきたいと思っています。

それと、一番の心配はこういう状況になってくると環境が変わって、世の中の、私たち

の仕事の内容も変わっています。つい最近もファストフード店に行ってそこで食事をしていたら、子どもたちが４人で席に座っていたのですけれども、ずっと携帯電話を持って会話をしないで、それで今度は携帯を持って何かをしていたのか、友達にこうやって見せて、それでそれを見て、それでまた下を向いて。こういう４人が集まってここで何をしているのだろうという。

そういう場面を見ると皆さん方も多分感じると思うのですけれども、対面授業と、こういったＩＣＴを使った授業と、学校は何をすべきなのかというところを。学校で、なぜここに集合しているのか、集まって何をするのか。私自身もＩＣＴに詳しくないですけれども、そこだけは一番心配しているところですので、学校のテーマの中に、ここにちょっとなかったのですけれども、学校でグループで集まることと、ＩＣＴとの差別化ということも考えていただきたいなと思っております。

これは感想と要望です。

伊藤委員

ご発表、ありがとうございました。様々なことに使えていて、特にＧｏｏｇｌｅ Ｃｌａｓｓｒｏｏｍとか、そういうツールがよかったのだなということが確認できて、とてもうれしく思いました。

私も大学で自分でもハイブリッド授業をしなければいけないというか、日夜いろいろ工夫しているのですが、その中でも思いますのは、協働学習支援ソフトなどを使ってぜひ考えるというような長いスパンでテーマを設けて探究学習をするとか、あとコミュニケーションということを、タブレットなどだからこそ即時的にできるというのを使ってやっていただけるといいのではないかなと思っているのです。

特に即時的なフィードバックがあるので、先ほど投げかけて終われるという話がありましたけれども、むしろ授業の途中で投げかけて、即時的にフィードバックをもらうことで、そこからの後半の授業のあり方を考えるとか、そういったこともできると思うのです。ですので、ぜひそういうふうな探究型、あるいは考えるということ、協働ということをうまく使っていただきたいなと思っております。

さらにそういうことに関連して、何か授業の中でこういう工夫がよかったとか、もし成果的なものがあれば、またお時間があったら教えていただけるとうれしいなと思いました。

以上です。

小林委員

お２人の校長先生、本当にお忙しいところありがとうございました。大変興味深く拝聴させていただきました。

幾つかお２人の校長先生の発表の中で私の心を捉えたものがあるのですが、こういうものを出すと意外と、「いや、ちょっと違うんじゃないの」と思われるかもしれませんが、私が一番印象に残ったのは、弓田校長先生が冒頭に、「私はあまりＩＣＴは得意ではないのですけれども」と言いながらきちんとやっておられるわけです。

そして、武智校長先生はいろいろなことをやった後、最後にじゃんけんをするのです。そうすると結構反応するクラスもある。実はこの二つは非常に重要なことであって、やはりいわゆるＩＣＴを、技術的なことを非常に習得できている教員だけのものではなくて、誰もがしっかりとやれるということが非常に重要になってくるのです。

そうすると、それを考えると技術的なものとか、そういったものを高めていくことが目的ではない。常々私が申し上げていますけれども、こういうＩＣＴの教育を進めていくのは、目的はＩＣＴを普及させることではないのです。目的は何かと言ったらば、その指導内容を、ＩＣＴを活用してしっかりと定着し膨らませていくということですから、これはＩＣＴを使えばいいというものは、見極めていかなければいけないし、「いや、明らかにこれは機器を使えば効果的だよね」というものをやっぱりしっかり見ていく必要があると思うのです。

ですから、何か技術的にすばらしいことをやったからいいとか、そういうことではないということは、私は常々思っています。しかし今、かなり進んでいますので、やはり効果的なものが多いのです。そういう点で、本質は押さえなければいけないと思います。

それから、じゃんけんというのは、私は非常に重要。じゃんけんが重要というのではなくて、遊び心というとちょっと不適切な言い方かもしれませんけれども、そういうものは、すごく私たちがいろいろ身につけていく上で重要で、やっぱり楽しくなければ定着しないのです。今回こういう新型コロナウイルスという、いまだ解決されていない、非常に緊張度の高い大きな問題がある中でこれをやるというと、非常に悲壮感というか、やらなければならないのだということなのですが、いや、そうではなくてこれをやったら楽しいのだよね。いや、これをやったら便利だよね。これをやったら勉強しやすいじゃない。これをやったら自分のペースで学習できるじゃないということに気がついてくれば、このＩＣＴはまた違った形で定着していくのではないかと思うのです。

ですから、あくまでも学校でやる対面授業の補完、それから来られないから、学校に登

校できないから、困っているからやる。これは事実あるのですけれども、そちらがメインではなくて、やっぱり使ったらこんなに便利なんだよね。使ったらこんなに楽しいんだよね。私も仕事柄、なかなか今までできないことに挑戦しなければならないと。やってみると結構、「ああ、できるじゃない」というところに気がつくわけです。ですから、そういうところは非常に重要かなと思います。

それから、ちょっとこれは発展して、あえて提言的にお話をさせていただくならば、武智校長先生が中学校は１年生から３年生まであまり違いませんよねと、いわゆる技能的な部分です。小学校はやっぱり１年生から６年生だから、低学年と高学年では大分やっぱりあり方が違う。もう当然だと思うのです。

そういう中で私たち教育委員会が考えなければいけないことというのは、だったら少し学校の形態を変えてみてもいいのではないのと。例えば４年制の小学校を考えてみると、義務教育学校というのはもう認められているわけですから、今新しい社会の中でどういう学校のあり方が問われているのかということを検討していく必要があるのではないかなと思います。

だから、従来のように中学校があるから、小学校があるからではなくて、今の時代に合った学校をつくっていく、義務教育の９年の中で。そういう視点も大事ではないかなと、私は今聞いていて非常に強く思いました。

それから、中学校の先生は教科担任ですから、その教科に専念できるという部分がありますけれども、ぜひ中学校の先生は共通でやれる特別の教科　道徳であるとか、特別活動であるとか、そういったものは共通してできるわけですから、どんどんそういった部分でも活用が図れると思いますし、やはり小学校全科、中学校教科担任。しかし、今徐々に小学校の専科の内容も増えてきて、そうなれば今後は小学校、中学校の先生の人事交流なんかも、それは単なるスポット的なものではなくて、もう異動の際に小学校と中学校をどんどん先生方を入れ替えていく。だったら入れ替えるだけではなくても、学校そのものを一つにしてしまえばその中で一緒にできるわけですから、そういう発想もすぐやりましょうではなくて、考えていく余地があるのだなと、今お２人の先生方の発表を通して、非常に強く感じました。私としては有益な勉強になった機会でありました。

本当にありがとうございました。

入野教育長

ありがとうございました。

ここで会議を一旦休憩いたしまして、傍聴者の方々からもご意見を伺いたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

午前１１時０３分休憩

午前１１時１６分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

各委員からその他、ご発言がございましたらお願いをいたします。

渡邉委員

小学校におけるＩＣＴ教育の課題の中に、今21校ある学校の中で、まだ６校しか支援員が配置されていないということで、これについては今後配置していく予定とか準備、そのあたりはどうなっているのでしょうか。

学校教育課長

今年度につきましては、コロナ禍の中で各校お１人ずつ本当は配置をしたいと考えて取り組んでいたところですけれども、なかなか採用が難しくて、中学校で６名、それから小学校で６名。その方々を５月末から８月にかけて採用して配置をしているところです。今は配置をしていない学校に実際に配置された学校から行っていただいて、なるべく全ての学校に支援員さんが行って関わっていただくということで、今年度はやりたいと思っております。

来年度以降はなるべく多く学校に行けるように、全校には無理なのですけれども、巡回をして、回っていただくようなことを今考えているところです。

渡邉委員

活用の仕方というところで今、力を注いでいるところだと思いますけれども、そこに対して非常に重要な要件になりますので、このあたりはしっかりと配置していただいて、そして少ないながらも各校で共有しながら、どう共有できるかを学校間でも、校長先生方もいらっしゃるので、学校間でどのように活用させていただくか相談しながら、とり合いというのではなくて、うまく活用できるように、よろしくお願いいたします。

入野教育長

ほかに委員からご発言はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

本日は、校長先生を初め傍聴されている方々からもいろいろなご意見をいただきありが

とうございました。

教育委員会でいつも話し合っていることについては、教育の目標は、我々が目標としているものは何なのか、そのための方法は何なのかということをはっきりして取り組んでいくということで、ＩＣＴのこの教育につきましても、これは目標ではなくて常に方法だということで確認しながら取り組んできたところだということをまた改めて確認したいと思います。

教育委員会としましては、学校ができることと、教育委員会がするべきことをしっかりと行っていくということで、教育委員会としては中野区の誰もがどこの学校においても同じ環境で、同じものを子どもたちに。同じというのは、その教育の仕方とかそういうことではなくて、同じことをしっかりと身につけさせるものについては同じものでございますので、同じものを提供できるようにということで、今後も取り組んでまいりたいと思います。

今回のコロナ禍でＧＩＧＡスクール構想での取組が加速していますけれども、着実に進めてまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

また、地域での教育委員会の狙いは、直接地域に住んでいらっしゃる方々や学校の方々とお話をする機会を得るということでもございました。学校や地域での現状を知るためには、やはり具体的にお話を伺うことが必要であるなと感想を私も持ちました。本日の会議は有意義なものになりましたので、今後の教育行政に生かしてまいりたいと考えております。

それでは、本協議を終了いたします。

最後に、事務局から、次回の開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の開催につきましては、11 月 20 日金曜日 10 時から、区役所５階の教育委員会室にて予定してございます。

入野教育長

よろしくお願いをいたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第 31 回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前 11 時 21 分閉会